

自治体の国際交流・協力

1対1から多対多

8月29、30日の2日間、世界遺産のゴシック様式大聖堂で知られるパリ南西の地方都市シャトルで、第3回日仏自治体交流会議が開催された。今回のテーマは「グローバル化への対応に向けて、自治体はいかに備えるべきか」。会議に参加して、自治体の国際交流・協力について考えた。(パリ 関分健史)



「原発の議論は予想していたが、洪水対策も議論になりびっくりした」

九州から唯一会議に参加した佐賀市の秀島敏行市長は、総会に続く分科会後、こう話した。

佐賀市は、合併した巨三瀬から引き継ぎ、フランス南西部ポルト近郊クサックと姉妹都市の関係にある。来年、25周年を迎える。

これまでは1年おきの中に学生を相互派遣し、ホームステイ交流を続けてきた。だが、会議は単に親書を深めようという話にとどまらなかった。

フランス北部コシエエニユや南部ローヌ川沿いのタラスコンは、温暖化で頻

発する洪水対策、調整池や監視システムなどについて報告。秀島市長もしばしば

本書に見舞われる佐賀市の取り組みを紹介し、ゲリラ豪雨対策の必要性などを挙げて意見交換した。

「高齢化、企業誘致、予算確保…日本の自治体もフランスの自治体も同じ悩みを抱えている。クサック三瀬は、子どもたちの交流で豊かな自然と伝統を継承していくが、環境などグローバルな問題への日仏連携も模索したい」。秀島市長はそう強調した。

研修で活性化

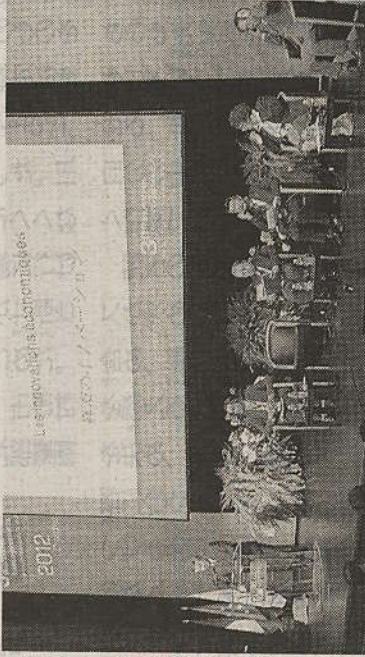
日仏間の姉妹・友好自治体は、60年近い歴史を持つ

グローバルな課題 共同対処 日仏の会談に反映

京都市、パリ市など50以上を数えるが、交流が代団の相互訪問程度のところは多い。

その中で、来年40周年を迎える金沢市ナシシー市の姉妹都市関係は、この10年でステップアップし活発化している。

フランス東部のナシシーはフランス、金沢は金箔など伝統工芸に代表される工芸都市。芸術文化だけでなくものづくりでも積極的に若



第3回日仏自治体交流会議で熱心な議論を続けた日仏の自治体代表

者の人材研修交流を進めることで、企業や大学間の交流も具体化していった。「活性化の力は人と人、特に若い人たちの交流と、山野之義・金沢市長は指摘する。

日仏自治体交流会議も、西市の交流を基に、2008年に始まった。地域の国際交流を支援する自治体国際化協会によると、姉妹・友好関係を持つ複数の自治体が集まって交流する国際会議は日仏間だけという。

実践例を共有

山野市長は今回、こうした研修交流や情報共有を「1対1でなく、多対多で行う自治体協力を提言。この考え方は「日仏交流会議

のネットワークを生かした多面的、実質的な自治体協力の枠組みの構築」とする共同宣言に反映された。ホスト役シャトルのシヤンピエール・ユルジエ市長は閉会式で「日仏の自治体の良い実践例を共有しながら、ネットワークで仕事をしよう」と呼び掛けた。

日仏間に今、大きな課題はないが、最近の日中韓のように国レベルの問題が噴き出したときこそ、自治体や民間の協力関係は重要だ。「多面的で実質的な協力の枠組み」が具体化し、自治体国際交流・協力の新しい流れが根付けば、さまざまな問題解決にもつながるといふ思いを強くした。

日本側参加自治体とフランス側提携・交流相手

仙台市	レンヌ (ブルターニュ)	マルヌ県	県
松島町	レイル (ブルターニュ)	エ・エ・マルヌ県	県
河内市	コンピエーニュ (ピカルディ)	アール・エ・ロワール県	県
白河市	(検討中)	バルビゾン (イル・ド・フランス)	県
富岡市	ナント (ロワール)	シャトールク	県
新潟市	ナント (ロワール)	ボアロロン (アキテーヌ)	県
金沢市	ボアロロン (アキテーヌ)	(特定せず)	
甲府市	ボアロロン (アキテーヌ)	ノール県	県
甲斐市	ボアロロン (アキテーヌ)	アン・ドール県	県
佐久市	ボアロロン (アキテーヌ)	バルビゾン (イル・ド・フランス)	県
長野県	ボアロロン (アキテーヌ)	シャトールク	県
岐阜県	ボアロロン (アキテーヌ)	ボアロロン (アキテーヌ)	県
兵庫県	ボアロロン (アキテーヌ)	ボアロロン (アキテーヌ)	県
朝来市	ボアロロン (アキテーヌ)	ボアロロン (アキテーヌ)	県
桜井市	ボアロロン (アキテーヌ)	ボアロロン (アキテーヌ)	県
高松市	ボアロロン (アキテーヌ)	ボアロロン (アキテーヌ)	県
佐賀市	ボアロロン (アキテーヌ)	ボアロロン (アキテーヌ)	県

日仏の連携強化を

古田 自治体会議で講演

バル化を推進しなければ、自治体も生き残れない時代になった」とも熱心に説明した。強調。県内企業と仏企業によるヘリコプターの分担生産などの事例を紹介しながら、今後の両国自治体の連携強化に期待を込めた。

古田知事は、通産官僚時代に、フランス国立行政学院に留学した経験を生かし、講演をすべてフランス語でこなし、二〇〇八年から取り組んでいる県とフランスの「地域交流プログラム」などについても熱心に説明した。会議は、日仏交流百五十周年を記念し二〇〇八年にフランスのナインシーで第一回が開催され、今回が第二回。県のほか仙台市など日本十五自治体、フランスの二十六自治体が参加した。文化や産業、防災などの分野で意見を交換し、最終日の二十日に共同宣言をまとめる。

【シャルトル(フランス中部) 野村悦芳】日本とフランスの市長、県知事らが意見を交わす日仏自治体交流会が二十九日、当地で開幕し、古田知事が、県の産業の国際的な戦略やフランスとの交流などについて講演した。



日仏自治体交流会で県とフランスとの交流について語る古田知事(シャルトル(フランス中部)で)

知事フランス出張関連記事

(平成24年8月30日(木) 中日新聞朝刊)

岐阜の海外戦略 フランスで語る

日仏自治体会議で講演

日仏自治体交流会議
出席のためフランス訪
問中の古田肇知事は29
日（現地時間）、パリ
南西・シャルトルであ
った同会議全体会で

「県のグローバル戦略
とフランスとの交流」
とのテーマでスピーチ
し、「岐阜」と「世界」
双方の戦略展開を
フランス語で説明し

た。「清流の国」や「モ
ノづくり県」であるこ
とを映像で紹介後、古
田知事は人口減少社会
に突入した日本では、
国内市場に目を向ける
だけでは地域経済が縮
小すると指摘し、地方
自治体の積極的な海外
展開の必要性を強調。
「岐阜は『市場は世
界』と位置付け、高級
刃物や家具などの海外
販路開拓を進めると同
時に、食や伝統工芸品
のモノを世界に紹介す
ることで、世界から人
を呼び込む戦略だ」と
説明した。

展開中の「フランス
・岐阜地域交流プログ
ラム」は、漫画制作分
野の交流などを紹介。
一方、100年前に岐
阜で撮られたフランス
航空教育団の貴重な写
真も見せ、岐阜とフラ
ンスの縁を強調。「地
方自治体の発展は世界
の活力を取り込む政策
が必要。自治体レベル
の交流は国家間交流よ
り成果を得やすい。会
議で連携の芽が生まれ
ることを期待する」と
結んだ。（久松孝志）

知事フランス出張関連記事

（平成24年8月31日（金）岐阜新聞朝刊）

日仏自治体交流会議
シャルトル市を開幕

佐賀など4自治体
【シャルトル(フランス中部)国分健児】日仏間の自治体交流のあり方を探る第3回日仏自治体交流会議が29日、世界遺産のゴシック様式大聖堂で知られるシャルトル市内で始まった。

日本からは佐賀市など15自治体、フランス側からはナンテ市など28自治体の代表が参加。グローバル化の対応に向けて、自治体は何かを準備すべきかをテーマに議論する。30日まで。

29日は開会式。後に続いて①経済の革新②文化の革新③住民の安全と環境における革新の三つの分科会で討論。30日後、会議の成果を共同宣言として発表する。

開会式では、シャルトル市のユルジュ市長が「グローバル化は地方自治体にとっても緊急の課題であり、日本側を代表して山野之義・金沢市長が「自治体が政治的イニシアチブを取って解決の道を探らなくてはならない」と

「多面的に協力」共同宣言

日仏自治体交流会議閉幕

日仏自治体交流会議の分科会を代表する佐賀市の秀島敏行市長(右)とフランス・シャルトル



【シャルトル(フランス中部)国分健児】フランスのシャルトル市内で開催された第3回日仏自治体交流会議は30日、

「交流会議のネットワークを生かした多面的な自治体協力の枠組みの構築を目指す」とする共同宣言を発表して閉幕した。

今回は2014年に高松市で開催するとして合意した。

会議では、岡田北部のシエヌ市が東日本大震災で被災した姉妹都市の仙台市に有効な支援活動をしたとして、両市に日仏交流委員を贈った。

九州から唯一参加した佐賀市の秀島敏行市長は「29日、住民の安全と環境における革新」をテーマにした分科会に参加。下水浄化センターから出る汚泥を利用した発電や、みどり畑など環境都市づくりの取り組みを紹介。熱気対談などフランス側と意見交換した。

「多面的に協力」共同宣言

日仏自治体交流会議閉幕

日仏自治体交流会議の分科会で発表する佐賀市の秀島敏行市長（右端）
11月29日、フランス・シャルトル



「シャルトル（フランス中部）国分健史」フランスのシャルトル市内で開催されていた第3回日仏自治体交流会議は30日、

「交流会議のネットワークを生かした多面的な自治体協力の枠組みの構築を目指す」とする共同宣言を発表して閉幕した。

次回は2014年に高松市で開催することで合意した。

会議では、同国北西部のレンヌ市が東日本大震災で被災した姉妹都市の仙台市に有効な支援活動をしたとして、両市に日仏交流優良賞を贈った。

九州から唯一参加した佐賀市の秀島敏行市長は29日、「住民の安全と環境における革新」をテーマにした分科会に参加。下水浄化センターから出る汚泥を利用した発電やごみ発電など「環境都市さ」の取り組みを紹介。洪水対策などでフランス側と意見交換した。

歴史的建築の施設視察

日仏自治体協議

金沢市
訪欧団

コシエトニ入り

【コシエトニ入り 金沢市長】の最初の姿

松本邦也(金沢市訪欧 場町であるコシエト工

団は翌日(金沢)回帰しコシエトに入った。回

自治体交流協議(日本 旦々日本側は自治体

側推進委員長・山縣が歴史的な建築物を生

かじり自治体活性化

施設や大規模な治水調

整施設を視察する。

【上面に関連記事】

28日はコシエトニ

三市で産官学がミマ

上を視察し、コシエト

ト北市へ移動。29日に

は日仏自治体による

全体会、分科で議論

を採め、30日に協議會

言を採択、閉会する。

H24.8.28 北国新聞

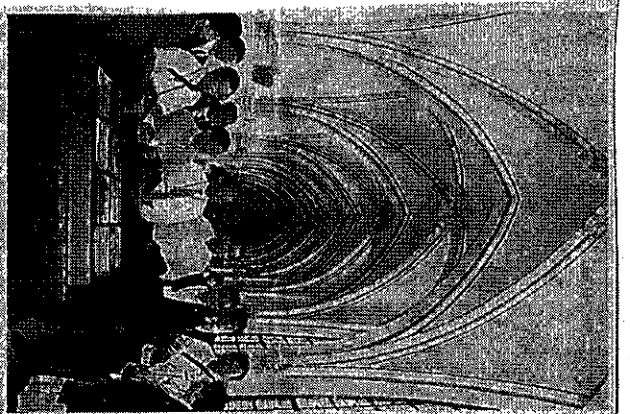
い、欧州から、
スウェーデン、
スウェーデンの
少で医療、医療の
や研究所、企業が
するシステム形成に
理解を深めた。

コペンハーゲン市
は、山野市長が日本側
推進委員長を務める
最初の会場。これに先
立ち、同市の旧市街地
の整備や防災施設の視
察では、同市の姉妹都
市である、福島県白河市
など、日本側も市長と
自治体国際化協会理事
長らが参加。歴史的建
造物のサン・コルネイ

子回廊を改装した図書
館などを訪れた。
東日本大震災を愛
は、今回の日仏自治体
交流委員会防災フォー
ムで、コペンハーゲン
市で中心部を流れる
オウレン川の洪水を防
止するなどの整備もた
水門や堤防、調整池な
ども見学した。

市街地整備など視察 日仏自治体 コペンハーゲン市長 山野市長は28日、仏コ ペンハーゲン市内を視察

歴史的な建造物を生かした区
画整理を視察する日本の自治体
関係者
＝仏コペンハーゲン市のサン
＝コルネイ回廊



「課題解決へ議論を」

日仏合同会議で歓迎夕食会

シャルトル 金沢市長呼び掛け

「シャルトル」松本 ランス・シャルトル市
和也」第3回日仏自治 歓迎夕食会が開か
体交流会議は28日、フれ、日本側推進委員長
の山野之義金沢市長は
あいさつで「日仏共通
の課題解決のため大い
に議論しよう」と呼び
掛けた。



会議の成功を期した日仏自治体関係者
—28日、仏シャルトル市庁舎(松本和也
撮影)

会議には日本側15自治体、フランス側23自治体に参加。1615年建築のシャルトル市庁舎で行われた歓迎夕食会では、シャルトル市のパトリック・ジョルア助役が「第2回会議を行った金沢の協力で第3回会議の開催にこぎ着けた」と感謝した。

29日は開会式に続き
全体会、分科会が開かれ、30日まで「グローバル化への対応に向けて自治体はいかに備えるべきか」をテーマに議論を深める。

H24. 8. 29

北国(974)

多面的な自治体交流の構築を確認した
開会式—仏シャルトル市のシャルトル
劇場 (松本和也撮影)



日仏自治体会議が開幕

多面的交流を強固に

山野市長が強調

【シャルトル】松本和也)第3回日仏自治体交流会議は29日、仏シャルトル市のシャルトル劇場で開会式が行われた。日本側推進委員長の山野之義市長は、東日本大震災に対する仏側自治体の支援に感謝し、「1対1の枠組みを超えた多面的な自治体間交流の基盤を強固なものにしたい」と会

議の意義を強調した。仏側推進委員長のジャン・ピエール・ゴルジュ・シャルトル市長は、「歴史と伝統を重んじる日仏国民のメッセージを世界に発信したい」とあいさつした。続く全体会は「グローバル化への対応に向けて自治体はいかに備えるべきか」をテーマに議論。藤本章仙台市

副市長は東日本大震災の復興と再生可能エネルギーの構築について説明し、「破壊の中から新しい次元の都市を創造したい」と述べた。

古田肇岐阜県、井戸敏三兵庫県の両知事、ゴルジュ市長ら日仏8首長が防災や経済の取り組みを発表した。

29日は経済、文化、環境の3分科会で討論する。山野市長は金沢の文化の優位性を紹介する。最終日の30日は先進的な交流を行った自治体を表彰し、今後の交流発展に向けた共同宣言を採択する。

8/30 北国

治体交流会議は29日、フランス・シャルトル市庁舎で分科会が行われ、日本側推進委員長の山野之義市長は「3回の会議を通じて築かれた関係を生かし、日仏自治体間ネットワークを形成しよう」と述べた。単なる意見交換に終わらせず、各都市が優位性を持つ分野で若者を中心とした人的交流を図る仕組みを提案した。



山野市長が日仏自治体間ネットワークの構築を提言した分科会

11月20日(仏)シャルトル市庁舎(松本和也撮影)

「日仏自治体ネットワークを」

交流会議で山野市長

若者中心の交流提案

分科会では経済、又ツールがあるのか分かされ、市国際交流員の「ヘルギー」出身は「環境の3テーマで「文化の革新」議論。「文化の革新」分科会で発表した山野市長は、姉妹都市ナンシー市と学生や職人の相互派遣や企業研修の実績を強調し、「金沢は正芸、美術などで優位性を持つ。姉妹都市に限らず、各都市の得意分野で人材育成が図られるように情報共有しよう」と呼び掛けた。

「広域観光で協力」フランス側自治体からは観光分野のネットワーク化も提案され、両国の文化を正確に伝えるため、文化体験の観光メニューを作成する方向で一致。広域観光の視点で日仏自治体が協力することで合意した。

フランス側からは「地方都市が日本から誘客するためにどんな」

最終日の30日は議論を総括し共同宣言を採択。シャルトル市民との対話集も何回か。

分科会では経済、又ツールがあるのか分かされ、市国際交流員の「ヘルギー」出身は「環境の3テーマで「文化の革新」議論。「文化の革新」分科会で発表した山野市長は、姉妹都市ナンシー市と学生や職人の相互派遣や企業研修の実績を強調し、「金沢は正芸、美術などで優位性を持つ。姉妹都市に限らず、各都市の得意分野で人材育成が図られるように情報共有しよう」と呼び掛けた。

「広域観光で協力」フランス側自治体からは観光分野のネットワーク化も提案され、両国の文化を正確に伝えるため、文化体験の観光メニューを作成する方向で一致。広域観光の視点で日仏自治体が協力することで合意した。

フランス側からは「地方都市が日本から誘客するためにどんな

金沢市長代表で登壇

日仏会議「多面的交流を」

【シャルトル(フランス中部)＝野村悦芳】日本とフランスの市長、県知事らが意見を交わす日仏自治体交流会議が二十九日、当地で開幕した。日本側推進委員長を務める金沢市の山野之義市長が、日本の参加自治体を代表してあいさつし、両国自治体間の交流を活性化させる必要性を訴えた。

山野市長は「従来の二対一の枠組みを超え、多面的な交流が今後必要になる」と述べ、姉妹都市の関係に合わせ、連携を拡大していく日仏自治体交流の新たな将来像を示した。また、東日本大震災で、義援金などで被災地支援に取り組んだフランスの各自治体に感謝の言葉を述べた。

会議は日仏交流百五十周年を記念して発足した二〇〇八年に金沢市の姉妹都市のフランス・ナンシーで第一回が開催された。一〇年の金沢市開催に続き第三回となる今回は、仙台市、岐阜県など日本の十五自治体とナンシーなどフランスの二十六自治体が参加した。



あいさつする山野・金沢市長＝29日、フランス、シャルトルで(野村悦芳撮影)

聞

「姉妹都市のネットワーク化で将来の交流発展につなげる素晴らしい会議になった」。日仏自治体交流会議を終え、仏外務省のジャンク・バラード・アンツァ移動大使は北國新聞社の取材に語った。

「日本では『段取り八分、仕上げ二分』という言葉があります。こちらは逆のようです」。金沢市と共

姉妹都市交流

絆のかたち

市訪欧団

分科会、視察を詰め込んだ第3回会議。共同宣言には「会議のネットワークを生かした多面的、実質的な交流、協力の枠組みを構築していく」とする山野之義市長（日本側推進委員長）の提言が盛り込まれた。

目立つ空席

もともと、会議全体を

- 150周年を記念した第1回会議はナンシーで、
- 第2回は2年後に金沢で

日仏自治体会議

「友好」から「実利」へ



ネットワーク構築を

開かれた。2国間で複数する世界で唯一の会議を深めたアンドレ・ロンの自治体首長が一堂に会し、姉妹都市として友好、市長と山出保前市長の

関係から生まれた絆がある。

金沢市は3回連続で日本側推進委員長を任せられた。山野市長は閉会式で「これほど多くの政治家が集まったのだから、共同宣言を実行に移さなければならぬ」と強調した。

2年後は高松市

2年後は高松市での開催。会議を単なる友好組織から実利ある枠組みに進化させられるか。会議に参加したすべての都市の空気が問われる。

(松本和也)

初企画ながら空席が目立った市民参加フォーラム
日仏シャルトル市のシャルトル劇場